

国立病院機構熊本医療センター

No.212



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成26年度 第2回

開放型病院連絡会開催が迫りました

平成26年度第2回(通算38回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、来る2月21日(土)午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催致します。

今回は、症例呈示、地域医療連携室からのお知らせ、紹介予約センターからのお知らせに続き、厚生労働省医政局総務課 保健医療技術調整官 町田宗仁先生の

特別講演を行います。

先生方をはじめ、看護部門、メディカルスタッフ部門、MSW、事務職員など多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、新規登録医の受付も当日、会場でできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付けください。

(管理課長 清水就人)

第38回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成27年2月21日(土)午後6時30分～8時00分

場所：国立病院機構熊本医療センター(2階 地域医療研修センター)

— 内 容 —

(1) 開放型病院連絡会総会

1. 症例呈示

①「当院における妊娠糖尿病診療の状況について」

糖尿病・内分泌内科医長

小野恵子

②「当院における婦人科腹腔鏡手術の状況について」

産婦人科医師

山本直

2. 地域医療連携室からのお知らせ

統括診療部長(地域医療連携室長)

清川哲志

3. 紹介予約センターからのお知らせ

副院長

高橋毅

(2) 特別講演

「医療法改正と今後の医療・介護提供体制」

厚生労働省医政局総務課 保健医療技術調整官

町田宗仁 先生

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501 内線5690(清水・富田)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「田原坂クリニックから
こんにちは」



田原坂クリニック
院長 平田 貴文

皆様こんにちは田原坂クリニック 院長の平田貴文です。当院は熊本市 北区植木町に昭和56年に平田胃腸科外科として理事長 平田 武臣が開院したのが始まりです。その後医院名の変更などがあり現在は田原坂クリニックとして診療しています。現在診療所は無床となっていますが、医療・福祉の融合をめざし老人保健施設・通所・居宅介護事業・老人ホームなどを行っています。さて当院は熊本市と玉東町の境界に位置しており植木町・山鹿地域・玉東・玉名地域などを診療圏としています。昨今は医療の細分化・専門家がすすんでおり当方も以前は消化器外科を専門としていました。しかし医院を継承した

現在、地域包括ケアシステムの役割として地元に着目した“町の診療所”・“安心・安全の医療・福祉の提供”を目標に掲げ“信頼される何でも屋！”をめざし日々の診療に取り組んでいます。特徴といまして東洋医学を取り入れた漢方治療・鍼灸治療や、私が癌診療に携わってきたことから健診・検診を含めた癌の早期発見、緩和ケア・看とりなども取り組んでいます。

熊本市北区の中でも当地域は総合病院、専門病院が不足しており医療資源が乏しい状態です。必然的に総合病院である熊本医療センターの皆様には悪性疾患はもとより多岐にわたる疾患の治療・診断などで日々お世話になっています。われわれが日々遭遇する救急疾患や難治性疾患に対しても安心して診療に取り組めるのは熊本医療センターという頼れる施設があるからだと思います。これからいろいろお世話になるとおもいますがよろしくお願いたします。

最後に私事ですが学生時代からはじめたラグビーを現在も続けています。現在は九州ドクターズというチーム（シニア）で活動を行っています。医療センターの先生方でプレイしたいという方はぜひ当方にご連絡ください！以上 チームへの勧誘でした。



紹介予約センターの業務を拡大しました

平素は紹介予約センターのご利用にご理解をいただきお礼申し上げます。この度、以下の点について業務を拡大致しましたのでご案内申し上げます。緊急を要しない場合は、紹介予約センターのご利用をどうぞよろしくお願い致します。

- 受付時間を17：00まで延長 (新8：30～17：00、FAXは17：15まで可)
- 処置や検査の予約窓口 (CT/MRI、胃瘻・シャントの相談→FAX申込)
- 予約の変更・キャンセル (調整に時間を頂くことがあります)

紹介予約センター

TEL: 096-353-6565 (or-6566) FAX: 096-353-6563

■一般診療は → ①お電話を → ②FAXを
仮予約 本予約 (当日中に申込書を)

■処置・検査等の予約は → FAXを
CT/MRI等の申込書胃瘻・シャント相談

■予約変更は → お電話を

地域医療連携室

- 入院のご相談
- 緊急受診のご相談

まずは当該診療科医師へご一報を

TEL: 096-353-6501 (病代)
FAX: 096-323-7601 (専用)

病棟紹介

6 南病棟



6南病棟スタッフ

6階南病棟は、血液内科及び腫瘍内科の病棟です。抗がん剤などの化学療法、同種（骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血）移植、自家移植を目的とした入院を受け入れています。

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などの難治性貧血、成人T細胞白血病や慢性骨髄性白血病、慢性骨髄増殖性疾患を多く受け入れ、様々な種類の化学療法を月に約200件（平成26年度）行っています。

無菌室の様子。特別な空調設備（高性能フィルタ）を使用し、きれいな空気を循環させているお部屋です。



また15床の無菌室を有し、骨髄・臍帯血・末梢血幹細胞などの造血幹細胞移植は、毎年約50例の実績があります。継続看護として、外来受診にあわせて「移植後看護外来」で退院後の生活や不安など、個別の関わりを行っています。

スタッフは、血液内科医師6名、看護師長・副看護師長を含めた看護スタッフ34名、病棟クラーク、看護助手が在籍し、温かく思いやりのある治療と看護の提供に努めています。

チーム医療として、毎週水曜日に医師・歯科医師・看護師・薬剤師・栄養士・歯科衛生士・理学療法士・MSWが参加する「移植カンファレンス」を実施しており、移植前後の患者様の経過や治療方針について検討しています。（6南病棟師長 佐藤美穂）

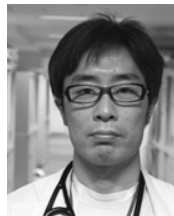


クリーンルーム（無菌室）は、二重の扉で閉鎖されたエリアにあります。

移植後看護外来で個別に対応します。



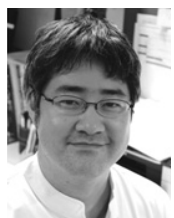
多職種が参加する「移植後カンファレンス」の様子



医長
田北 智裕 (たきた ともひろ)
神経内科、脳血管障害
日本神経学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本内科学会認定医



医長
幸崎 弥之助 (こうざき やのすけ)
神経内科、脳血管障害
日本神経学会専門医
日本内科学会指導医・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本脳卒中学会専門医
日本救急医学会専門医



医長
小阪 崇幸 (こさか たかゆき)
神経内科
日本神経学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本内科学会認定医



医師
加藤 勇樹 (かとう ゆうき)
神経内科



医師 (非常勤医師)
俵 哲 (たわら さとる)
神経内科
日本神経学会専門医
日本内科学会指導医・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
日本頭痛学会専門医

診療実績

平成25年度の新外来患者は1,031人、新入院患者数は619人でした。平均在院日数は15.4日となっております。

研究実績

日常臨床を重視して、様々な神経疾患症例の臨床研究を行っています。脳梗塞などの救急疾患における画像や検査所見に対する研究や貴重な症例等について、日本神経学会、日本脳卒中学会、その他の研究会等に発表しております。

診療の内容と特色

神経内科疾患全般を取扱っていますが、当院が救急病院ということもあり、入院中心の診療を行い、脳血管障害、てんかん、脳炎・髄膜炎などの救急疾患が多い特色があります。また、当施設は脳梗塞超急性期における血栓溶解療法にも対応しております。

外来では、パーキンソン病などの神経難病や、頭痛・めまいなどの機能性疾患についても幅広く対応しております。日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定教育病院に認定されています。

ご案内

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋が障害される疾患を扱っています。外来診療に関しましては、月曜日と木曜日が田北、火曜日が小阪、水曜日と金曜日は幸崎が担当しております。入院診療に関しましては、田北・幸崎・小阪・加藤の4名体制にて診療しております。

時間外及び休日の急患につきましては、on call体制にて対応しております。

当科に関連すると思われるような疾患につきましては、いつでも御紹介、御相談いただければ幸いです。

熊病の歴史

消化器内科 (3)

その後は、2005年に自治医科大学出身の押方慎弥先生が赴任し、当院でのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の草分けとなりました。2003年熊本大学大学院部局化が推進され、第一内科、第二内科および第三内科消化器部門が統合し消化器内科学講座が開講しました。佐々木裕初代消化器内科教授による医局人事により、2007年に片山貴文先生が加わり肝臓病を主に活躍しました。以後熊本大学消化器内科医局人事となり、2008年に尾上公浩先生がESDを引き継ぎ、2011年に村尾哲哉医長と小林起秋先生が消化器病一般、そして2013年

より石井将太郎先生と泉良寛先生が胆膵疾患を、本原利彦先生が消化器疾患を広く受け持ち戦力に加わることになりました。この年には河野文夫院長の高配で超音波内視鏡が整備され、本格的な胆膵疾患診療体制が整い、消化管と肝胆膵全般において質の高い診療を提供できるようになりました。同年受審した病院機能評価では、消化器病センターは問題なく通過しました。まさにこれまで理想としていた消化器内科です。小林先生は2013年9月に、泉先生は12月で大学に戻り、2014年より後任の松野健司先生と柚留木秀人先生が赴任し、現在の体制が出来上がりました。

この15年間の診療実績は外来新規患者数、紹介患者数、新入院患者数において右肩上がりとなり、当院で初期研修を終えた若手医師の熊本大学消化器内科への入局数も毎年2から3名と人気の高い診療科になっています。忙しい診療に加え、臨床試験、多施設共同研究あるいは学会発表、講演、論文執筆と人的充実に見合った活動をみせています。これらの実績が達成できたのは、胃相談室から始まり消化器科を経て消化器病センター消化器内科の歴史に足跡を残した関係諸先生の熱意と努力の成果であり、それを支えてくれた看護師、検査技師をはじめとするメディカルスタッフの協力の賜物であり、深く感謝します。また、現在そしてこれから消化器内科に関係する医師およびメディカルスタッフにおいては、これまで基本理念としてきた『丁寧な対応と入念な診療、協調協力と新たな挑戦』を受け継ぎ、さらなる発展とともに、この歴史に新たな業績を書き加えてくれるよう希望します。2014年5月30日第50回日本肝臓学会総会からの帰途に就き、この稿の筆を擱きます。

消化器病センター消化器内科の発展に貢献していただいた先生方及び、看護師長の一覧を示します。敬称ならびに一般内科および外科、放射線科の諸先生を省かせていただきますことをご容赦ください。

(消化器内科部長、消化器病センター長 杉 和洋)

氏名	職名	在任期間	現職
前田和弘	医員、医長、内視鏡室長	1974年～2012年	武蔵ヶ丘病院
木村圭志	医長、副院長	1975年～2003年	七城木村クリニック
小畑伸一郎	医員	1987年～1996年	おぼた胃腸科内科クリニック
加茂章二郎	医員	1996年～2006年	加茂内科医院
中園光一	医員	1998年～2003年	益城なかぞのクリニック
杉和洋	超音波室長、医長、部長、消化器病センター長	2001年～現在	当院
中田成紀	レジデント、医員、医長、超音波室長	2003年～現在	当院
押方慎弥	医員	2005年～2008年	高千穂町国民健康保険病院
片山貴文	医員	2007年～2010年	わかばクリニック
尾上公浩	医員、医長、内視鏡室長	2008年～現在	当院
村尾哲哉	医長	2011年～2013年	熊本大学消化器内科
小林起秋	医員	2011年～2013年	熊本大学消化器内科
石井将太郎	医員、医長	2013年～現在	当院
泉良寛	医員	2013年～2013年	熊本大学消化器内科
本原利彦	医員	2013年～現在	当院
松野健司	医員	2014年～現在	当院
柚留木秀人	医員	2014年～現在	当院
吉窪誠司	レジデント	1995年～1998年	吉窪内科放射線科医院
水足謙介	レジデント	1995年～2000年	くまもと森都総合病院
中田成紀	レジデント	1998年～1999年	2003年より当院
浦田昌幸	レジデント	1999年～2001年	熊本総合病院
大内田義博	レジデント	2001年～2002年	くまもと森都総合病院
松岡健三	レジデント	2002年～2003年	高野病院
天野将之	レジデント	2003年～2004年	熊本大学血液内科
本池晋	レジデント	2004年～2005年	武蔵ヶ丘病院
今村誠子(藏元)	レジデント	2005年～2006年	南風病院
田島暁子(枚)	レジデント	2005年～2006年	牧診療所
渡邊丈久	レジデント	2006年～2007年	熊本大学消化器内科
松山太一	レジデント	2007年～2009年	水俣市立総合医療センター
岡本有紀子(佐藤)	レジデント	2008年～2010年	佐藤医院
東野奈津己(田代)	レジデント	2009年～2010年	くまもと森都総合病院
具嶋里香	レジデント	2010年～2011年	休職中
吉成元宏	レジデント	2010年～2012年	熊本総合病院
田島知明	レジデント	2011年～2013年	NTT東日本関東病院
古閑陸夫	レジデント	2012年～2014年	熊本赤十字病院
持永崇恵	レジデント	2013年～現在	当院
市川亮	レジデント	2014年～現在	当院

氏名	部署	在任期間
松田理恵	別3病棟	1997～2002
下地美千代	別3病棟	2002～2003
岡野千代美	別3病棟	2003～2005
下地美千代	別3病棟	2005～2008
田中雅美	別3～7階西病棟	2008～2010
田中幸子	7階西病棟	2010～2014
西辻美佳子	7階西病棟	2014～現在

氏名	部署	在任期間
竹山由子	外来	1994～1999
河島京子	外来	1999～2001
菅真知子	外来	2001～2004
城雪子	外来	2004～2008
鮫島明子	外来	2008～2011
松本深雪	外来	2011～2013
中園千代子	外来	2013～現在

病児・病後児保育室「こぐま」を開設しました

平成26年12月1日、3階の図書室前（旧 院内学級）に、病児・病後児保育室「こぐま」がオープンしました。病児・病後児保育室は、熊本県内に27カ所、熊本市には8カ所の施設があります。当院の病児・病後児保育室は、職員のお子さんに限定した保育室であり、子育て中の職員にとっては待望のオープンでした。10月に開設が決定し、2ヶ月足らずの準備期間でしたが、保育室のネーミング募集から始まり、規程や運用マニュアルの整備、昼食の手配、部屋の改修、物品の準備など、多くの皆さんのご協力ですムーズに開設することができました。

全職員に保育室のネーミングを募集したところ、46のかわいい名前の応募があり、プロジェクトメンバーによる投票結果で「こぐま」に決定しました。応募を通して、病児・病後児保育室の設置をお知らせすることができ、すっかり、みなさんに親しまれています。



「こぐま」オープン時
テープカットの様子

また、開設に先立ち11月末に「子育て支援説明会」を開催し、病児・病後児保育室の説明をお知らせしたところ、思わぬ反響で106名の参加がありました。子ども連れの子育休中の職員から、勤務中の医師・看護師など、多くの職種の参加があり、「本当に助かります」「待ってました」との声を聞き、病児・病後児保育室に対する期待の大きさを痛感しました。

現在、外来看護師2名が担当し、定員は4名と制限がありますが、8時から18時までの時間帯にご利用いただいています。12月の利用状況は、医師、看護師、事務職員の利用があり、稼働は78%と好調でキャンセル待ちが入る日も見られました。

当院の看護師の平均年齢は29歳と若く、子育て中の職員を多く抱えています。仕事と子育ての両立には、周囲のサポートが不可欠であり、熊本医療センターの貴重な人材として安心して働き続けられるよう、ワーク・ライフ・バランスを応援していききたいと思います。
(副看護部長 田崎ゆみ)



保育室の様子



平成26年度合同慰霊祭が行われました

12月25日（木）、平成26年度合同慰霊祭が地域医療研修センターで執り行われました。本年は、平成25年9月から平成26年8月までの1年間に当院でお亡くなりになられた患者様655柱が対象で、多くの病院職員の方々に参列を頂きました。

式典は午後2時から始まり、河野院長による追悼の辞では、「私共は、この厳粛なる事実を銘記し、医学の進展に遅れることなく日々研鑽を重ね、更なる医療の向上と安全確保に努める覚悟です。」との言葉がありました。



河野院長の追悼の辞の様子

その後、お亡くなりになられた故人に哀悼の意を表し、式典に参列した職員全員による献花が粛々と行われ、式典は終了いたしました。

また、参列した職員だけでなく、式典終了後も病院職員が献花できるように午後4時30分まで祭壇はそのままとし、多くの職員の方々に献花を頂きました。

最後に、この合同慰霊祭に参列頂きました全ての職員の方々のご協力により、滞りなく終了できましたことに厚く御礼申し上げます。

(経営企画室長 織田政継)



職員による献花の様子

第20回 国立病院機構熊本医療センター医学会が開催されました

去る1月17日に第20回国立病院機構熊本医療センター医学会が開催され、症例報告・臨床研究報告など41題の演題が発表されました。発表の内容をみると、診療部の先進的な発表に加え、それ以外の部門でも優れた発表が多かったと感じました。看護部からは、救急外来におけるトリアージシステムの改善により、トリアージの精度が向上したことが発表されました。臨床検査科からは、血液培養検査を解析結果が報告され、当院の現状と取り組むべき課題が提示されました。

また、地域連携室からは、救急外来に搬送された身元不明患者に対して、行政を巻き込んでサポートを行



写真左) 花園内科クリニック院長 木村義博先生、織田経営企画室長

写真右) せんだメディカルクリニック院長 千田治道先生、清田手術室看護師長



い、病気のみならず社会環境までも改善した事例が発表されました。全体にスライドは分かり易く、スピーチも明快であったと思います。最後に、花園内科クリニックの木村義博先生とせんだメディカルクリニックの千田治道先生には、お忙しい中座長をお引き受けいただき、活発な討議をお導きいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

(臨床研究部長 芳賀克夫)



会場の様子

第4回二の丸外傷トレーニングを開催しました

平成27年1月10日に、第4回二の丸外傷トレーニングを開催しました。

昨年の反省（インフルエンザ流行時期とまるかぶり）を踏まえ、例年よりひとつき早くしましたが、インフルエンザの流行も同じく前倒しの状態でした。

今回も院内外から総数70名超の参加者を迎え、当院研修医1年目を対象としてコースを展開し、大きな混乱もなく無事に終わることができました。

午前中のスキルステーションで外傷治療に必要な手技や考えかたを学んで貰い、その後デモンストレーショ



参加者と記念撮影

ンをはさんで午後から模擬診療を行いました。

午前中に学んだ手技や診療の流れを思い出し、駆使し、一所懸命に外傷患者の治療にあたる研修医たち—彼らが次第に理解を深め、最後には自信をもって治療にあたる成長した姿は、いつみても嬉しく、そして頼もしく思います。特に今回は昨年の受講生である当院2年目の研修医や、当院の初期研修医OB/OG達も後輩の指導を積極的にしてくれたことが個人的には大変嬉しく思いました。本コースも4回目となり、来年度は当院で初となるJATECコースを開催することも決定しています。更なる外傷治療の質の向上にむけてチーム力のレベルアップに貢献していきたいと思

(外科医長 松本克孝)



模擬診療の様子

最近のトピックス

「巻き爪、陥入爪治療の最先端」



形成外科医長
束野 哲志

巻き爪（爪の両端が湾曲した状態）の方は意外に多く、10人に1人以上と言われています。軽度の湾曲であれば症状が無く、自身でも気付かないことが多い様です。湾曲が強くなったり、爪角（爪の先端の角）が食い込んだりし始めると痛みが出てきます（この状態を陥入爪と呼びます）。ひどくなると化膿し、不良肉芽の増生をきすこともあります。

当科では、巻き爪、陥入爪の治療方法として、主に手術療法またはワイヤー療法（矯正療法）を施行しています。手術療法では、湾曲している部位を爪母まで切除し、フェノールで焼灼して生えてこない状態にします。術後1～2週で歩行時の疼痛も落ち着きます。ワイヤー療法では、爪の先端または根本にワイヤーをかけ、爪を矯正します。先端にワイヤーをかける方法（マチワイヤー）は、ある程度爪が伸びていないと出来ませんが、根元にかける方法（3TO）はほとんどす

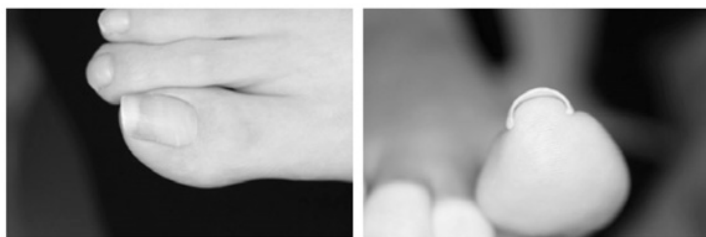
べての爪に施行出来ます（化膿している爪や、不良肉芽を伴っている爪にもかけられます）。

それぞれに利点、欠点があります。手術療法の主な利点として①保険診療であること②施術が基本的に1回であること等が挙げられます。欠点としては①施術時に麻酔が必要②術後疼痛がある③爪が小さくなったり変形したりすること等が挙げられます。ワイヤー療法の利点としては①施術時、施術後に痛みがほとんどない②爪が小さくなることがない等が挙げられます。欠点としては①医療保険が適応されない②3か月前後で付け替えが必要で完全に矯正されるまで1～2年かかる等が挙げられます。両者の比較表を掲載します。

それぞれに利点、欠点がありますので、爪で悩まれている患者様を診察された際には当科をご紹介します。ただけましたら幸いです（施術は基本的に木曜日に行っています）。

	手術療法	ワイヤー治療	対症療法
種類	フェノール法 爪形成 (単純、複雑)等	マチワイヤー 3TO(VHO)等	テーピング チューピング等
保険	適応	適応外	適応
疼痛	麻酔有り 処置後の疼痛有り	麻酔無し 処置後の疼痛無し	麻酔無し 処置後の疼痛無し
効果	早い 再発有り	早い～遅い 再発有り	早い 根治的治療で無い
合併症	爪の変形等	無し	無し

【施術前】



【施術直後】



いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ91回

サマリ内容の質の向上への取り組み

診療情報連携室 前田七光 片渕 茂

【目的】

診療情報連携室の業務としてサマリの記載確認を行っています。サマリの質の向上を図るため、記載内容の確認とそれに伴うサマリの未完成率を調査し、推移と効果を検討しました。

【方法】

サマリの確認項目は病理診断結果の記載漏れ、手術日の記載間違い、手術術式情報の取り込み漏れ、手術記事の取り込み漏れ、退院時処方を取り込み漏れ、文書伝票名の削除漏れ、紹介先の記載漏れ、紹介元の記載漏れを不備としました。主治医、医長、診療情報連携室で確認後、各項目が不足しているサマリを主治医へ記載の追加・訂正を依頼しました。

【結果】

サマリの記載内容の不備について、2009年9月から4項目、2010年4月から7項目、2011年6月からは8項目の確認を開始しました。記載依頼前の不備件数について、2010年7月は756件でありましたが、記載依頼後の不備件数は2011年11月では13件まで減少しました。確認する項目を増やすと依頼前後ともに不備件数は一時的に増加しましたが、記載依頼を継続することにより記載依頼前後ともに減少しました。(図1)

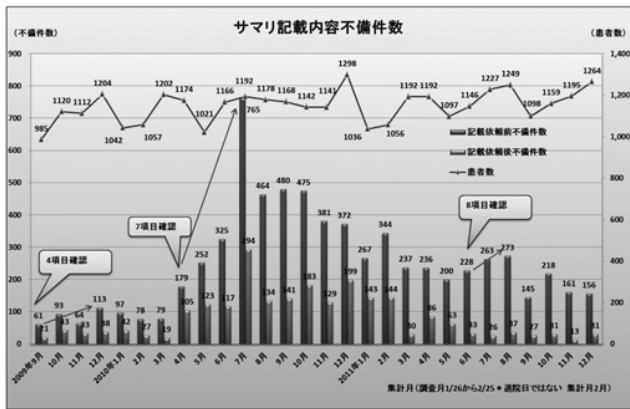


図1

不備項目の確認開始後、サマリの未完成率の明らかな増加はみられませんでした。

退院1週間後の未完成率は減少傾向にありましたが、2・3週間後の未完成率に明らかな増減はありませんでした。

2011年12月では、1週間後の未完成率は15.2%、3週間後の未完成率は2.5%になりました。

確認項目を増やしていきましたが、明らかな不備の

増加はみられませんでした。(図2)

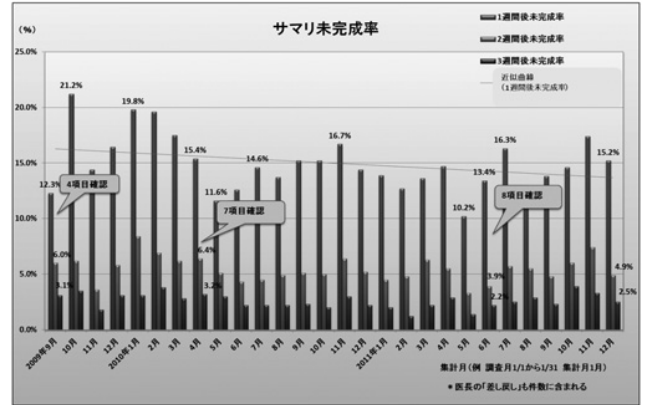


図2

サマリの記載文字数と未完成延べ総数(診療科別)について、記載する文字数が多い診療科はサマリの未完成率が高く、外科系など患者数が多い診療科もサマリの未完成率が高い傾向にありました。患者数と診療内容によって特色があることが判明しました。

内科系と産婦人科、小児科の文字数は比較的多く、サマリの未完成率も低い傾向にありました。

呼吸器内科は、医師1人あたりの月平均患者数と記載する文字数も比較的多く、サマリの未完成率も低い傾向にありました。(図3)

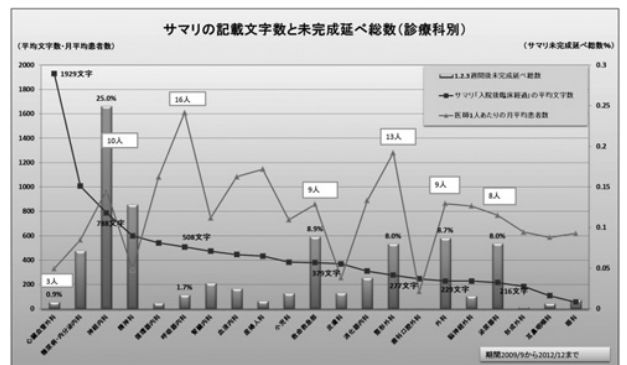


図3

【考察】

サマリの確認項目を増やし記載確認をすることにより、記載内容の不備は減少し、サマリの未完成率の明らかな増加もみられませんでした。今後も診療情報連携室で行うサマリの記載内容の確認を継続し、迅速な記載へと繋がる働きかけに取り組んでいく必要があります。

研修医レポート

臨床研修医

わたかべ たかひろ
渡壁 孝弘



こんにちは。研修医一年目の渡壁です。熊本大学医学部を卒業して、熊本医療センターの研修医として早9ヶ月がたちました。3月には第一子が生まれる予定で、公私ともに充実しております。

私は今まで、外科、循環器、麻酔科、整形外科、現在救急と研修をさせてもらっていますが、それぞれの科で学んだことが大変ためになっております。

研修が始まった4月、5月は右も左もわからず多くの人にご迷惑をおかけしましたが、その都度ご指導していただきました。患者さんとのコミュニケーションの仕方から学ばせていただきまして、電子カルテの使い方まで本当にわからないことばかりでした。

研修で回らせていただいた各科での疾患の診断と治療法は多くのことを学ぶことができました。

外科で学んだ消化器の解剖と縫合。循環器で学んだ心電図、エコー、薬剤の基礎。麻酔科で学んだ全身管理と採血、挿管、腰椎穿刺。整形外科で学んだ骨学と解剖。と書ききれないくらいにたくさんを学ばせていただきました。

また、夜勤、日勤では忙しい中で上級医と2年目の研修医の先生にご指導いただき、しばらく全く役に立てずに茫然としていましたが、何とか自分のやるべきことを見つけられるようになってきました。日勤、夜勤ではとにかく症例数が多く、豊富な症例数により濃密な研修ができるため、この病院で研修できて良かったと心底思っています。

現在、救急救命科を研修させていただいておりますが、日々学ぶことがたくさんあります。多くの病院から患者様をご紹介いただき、多彩な症例の中、緊張しながら精一杯自分の出来ることをさせてもらっています。これからもご迷惑をおかけするとは思いますが、しっかり勉強しお役に立てるようにしたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

臨床研修医

にしざわ ひでかず
西澤 秀和



こんにちは。研修医1年目の西澤秀和と申します。島根大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修も早いもので8か月が経過しましたが、自分自身で自信を持って行える医療行為はなかなか増えず、大勢のスタッフの方々に助けられ、感謝の毎日です。

これまでの研修生活を振り返ると、最初の科は循環器でした。院内の仕組みに戸惑いながらも、これまで苦手意識を持っていた心電図、エコーを学ばせていただきました。

次に回らせていただいたのは、外科でした。画像所見の見方や、手術適応になる身体所見、入院から退院までの病棟業務の流れや、様々な手技を経験することができました。

3つ目は整形外科を回らせていただきました。整形の手術は一人で執刀されているものが多く、助手としてたくさん手術に入り、外科で覚えた手技をさらに向上させることができました。また、脱臼の整復法やシーネ固定など救急外来でも活かせる手技を教えてくださいました。

4つ目の科は麻酔科で、それまでの科とは全くの異次元な雰囲気には最初は戸惑いました。しかし、患者様のリスク把握や、周術期管理は、自分の行った医療行為の結果が即座にわかるという点で、とても責任を感じますが、適切な対応ができた際の嬉しさはこれまでは無いものでした。

現在(12月)は脳外科を回らせていただいております。これまでで最多の担当患者数に苦戦しながらも、自分のとった身体所見と画像所見との正誤性や、病棟業務を鍛えさせていただいています。

4月には自分も2年次研修医になります。今の2年次の先生方の様に頼れる医師になるため、努力していきたいと思っております。

研修のご案内

第49回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成27年2月14日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本中央病院院長

濱田泰之 先生

演題：「女性の尿失禁と男性の尿失禁」

- | | | |
|------------------|----------------------|---------|
| 1. 腹圧性尿失禁 | 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 | 陣内良映 |
| 2. 過活動膀胱 | 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科 | 矢野大輔 |
| 3. 前立腺肥大症（内科的治療） | 川野病院院長 | 川野 尚 先生 |
| 4. 前立腺肥大症（外科的治療） | 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長 | 菊川浩明 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第193回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年2月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------|------|
| 1. 内科基礎講座 | 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 | 名村 亮 |
| 2. 症例検討 「HbA1cと異常ヘモグロビン症について」 | 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 | 小野恵子 |
| 3. ミニレクチャー「動脈硬化とDPP4阻害薬」 | 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 | 松原純一 |

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第161回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成27年2月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 「リウマチ性多発筋痛症を合併した2型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
前原遼、坂本一比古、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
- 「インスリンデグルデクの誤注射により救急搬送となった低血糖の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
坂本和香奈、前原遼、坂本一比古、堀尾香織、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501（代表）内線5796

第137回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成27年2月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「形成外科・皮膚科・整形外科救急疾患」

- | | |
|----------------------|------|
| 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 | 大島秀男 |
| 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 | 牧野公治 |
| 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 | 橋本伸朗 |

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

2015年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研 修 室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)		
5日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「整形外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 中馬東彦	
6日(金)		
7日(土)		
8日(日)		
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)		
12日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「病理から臨床へのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長 村山寿彦	
13日(金)		
14日(土)	15:00~17:30 第49回 症状・疾患別シリーズ 「女性の尿失禁と男性の尿失禁」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本中央病院 院長 濱田泰之 1. 腹圧性尿失禁 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 陣内良映 2. 過活動膀胱 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科 矢野大輔 3. 前立腺肥大症(内科的治療) 川野病院 院長 川野 尚 4. 前立腺肥大症(外科的治療) 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長 菊川浩明	
15日(日)		
16日(月)	19:00~20:30 第193回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
17日(火)		
18日(水)	14:00~15:00 第23回 市民公開講座 「花粉症のお話」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村尚樹	
19日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「薬剤科からのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター薬剤科長 真鍋健一 20:00~21:30 第68回 医歯連携セミナー 「血液内科の疾患と治療」 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘	19:00~20:45 第161回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
20日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」
21日(土)		
22日(日)	9:00~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部学会	
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
25日(水)	18:30~20:00 第137回 救急症例検討会 「形成外科・皮膚科・整形外科救急疾患」	
26日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「リスクマネージメントからのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター医療安全管理係長 高尾珠江	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
27日(金)		
28日(土)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)